

## 学校運営協議会 会議実施報告書

- 1 会議名 令和元年度吉城高等学校学校運営協議会（第1回）
- 2 開催日時 令和元年5月27日（月）13:30～15:50
- 3 開催場所 吉城高等学校会議室
- 4 参加者 委員（敬称略）
- |       |                  |
|-------|------------------|
| 沖畑 康子 | 飛騨市教育長           |
| 渡邊 正憲 | 株式会社飛騨ダイカスト代表取締役 |
| 石原 典子 | 民生委員             |
| 前川 隆子 | 地域代表             |
| 柳 憲嗣  | 飛騨古川青年会議所理事長     |
| 坂本 頼彦 | 吉城高校育友会長         |
- 学校側
- |       |        |
|-------|--------|
| 日江井孝浩 | 校長     |
| 大野 貴司 | 教頭     |
| 日野 利明 | 事務長    |
| 小原 誠  | 教務主任   |
| 下嶋 和長 | 生徒指導主事 |
| 小澤 耕  | 進路指導主事 |

### 5 会議の概要（協議事項）

- (1) 挨拶
- (2) 会長、副会長の選出
- (3) 授業参観
- (4) 協議事項
  - ア コミュニティ・スクール
  - イ 授業に対する意見
    - ・授業改善
    - ・ICT化
  - ウ 学校運営の基本方針等
    - ・学校経営計画（高等学校版マニフェスト）
    - ・学校の組織編成（運営機構）
    - ・教育課程の編成
    - ・教育指導の重点
    - ・学校活性化事業
  - エ 各分掌からの説明
    - ・教務部（教育課程及び学校設定科目）
    - ・進路指導部（H30年度卒業生の進路状況）
    - ・生徒指導部（校則について）
    - ・キャリア推進部（YCKプロジェクト）
  - オ 地域との連携
    - ・飛騨市学園構想への参画
- (5) 協議・意見交換

## ○ 授業に対する意見

- 意見1 見学者がいたので、生徒も緊張していたと思うが、もう少し元気のある子がいても楽しいかなと思った。電子黒板については、どのように使うのか使い方に疑問を持った。
- 意見2 授業を見させていただき、いろいろな工夫がされていると感じた。英語の授業では、先生がすべて英語で教えている姿をみて大変素晴らしいと思った。生徒が積極的に英語を話してコミュニケーションが取れるようになれば良い。電子黒板については、写真や動画を用いることで生徒がイメージしやすくなるので、素晴らしいものだと感じた。クラス掲示を見させていただき、SDGsに取り組んでいることが分かった。ユネスコスクールに登録されていることも伺った。私たち青年会議所としても、SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標に取り組んでいきたいと考えているので、高校生が働くまでのところで協力していけたらと思った。
- 意見3 一生懸命授業に取り組んでいる姿が良かった。電子黒板があるのに、地図を開きなさいと先生が指示をしていたが、電子黒板で示せば良いのではと感じた。また、タブレットを生徒が使用できれば良いとも感じた。
- 意見4 自分たちの高校生の頃とは随分違っていると実感した。
- 意見5 授業を見させていただき、先生と生徒の関係が柔らかく良い感じを受けた。しかし、他と異なる考えを言えたり、行動を起こしたりできる生徒を育てることも必要だと考える。小中高が連携し、一緒に手を取り合って未来を切り開くたくましい生徒を育てたいと考えている。

## ○ 学校経営計画に関する事項

- ・全員一致で承認された。

## ○ 学校の組織編成に関する事項

- ・全員一致で承認された。

## ○ 教育課程の編成に関する事項

- ・全員一致で承認された。（意見及び回答は以下のとおり）

意見1 1年生が2年次の選択科目を検討する時間はどの時間で行うのか。

回答 総合的な探究の時間で行っている。担任をはじめ多くの教員が話をしながら進めるが、業者による進路適性検査も実施し、文理選択、科目選択について生徒に考えさせている。総合的な探究の時間は1単位である。

意見2 地域課題探究の中身を教えてほしい。

回答 課外活動として行っていた「吉高地域キラメキ（YCK）プロジェクト」のリーダー活動を、今年度から学校設定科目の1単位の授業として実施している。台湾研修についても、今年度から「国際理解探究」とし、1単位の授業としている。両科目とも自由選択科目として全学年に設定している。

意見3 カリキュラムについては複雑になっている。親への理解をどう求めていくかが今後の課題であるとともに、中学校においては高校につなげるために、中学校の時点から生徒に進路についてより細かく考えさせることも必要だろう。併せて保護者が理解するステージも設けてほしい。

## ○ 進路指導について

意見1 昨今、就職については飛騨地区の求人倍率は上がってきているのに対して、中京方面は減ってきている。それによる影響を教えてください。もう一点は、進学でも就職でも卒業後のミスマッチによる相談やケアはどのように行っているか。

回答 求人数は昨年度600件以上あった。就職希望者は20名くらいであったため、

求人倍率は30倍以上となった。しかし、ミスマッチは少なからずあると考える。それをできる限り最小限にとどめるため、教員は生徒と綿密に話をしながら本人の適性を考え、複数の企業見学をさせるなど、丁寧な就職指導を心掛けている。

意見2 地区外に出た生徒が辞めたいと言ってきた場合に、何らかのアフターケアまでであると生徒には心強いと思う。

意見3 国公立大学の推薦入試合格者は13人中5人ということであったが、私立はどのような状況か。

回答 私立大学は、合格者68名のうち、推薦・AO入試で20名が合格している。短大に関しては推薦入試がほとんどである。

#### ○ 地域との連携について

意見1 市としては、飛騨市の保小中高、特別支援学校を「ひとつの学園」と捉え、系統性、連続性のある一貫した教育活動を実現するために飛騨市学園構想に取り組んでいる。吉城高校のYCKプロジェクト（地域をフィールドとした課題解決型学習）にみられるように、幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えられるように学校運営協議会を整備し、地域学校協働活動をより活発にしていきたい。

意見2 今の時代にどういう人材が求められているのかが共有されれば、あとは保育園ではこんなことができる、小学校ではこんなことができるという提案になる。子どもが社会に出た時に身につけておくべき力から保育園では何ができるかという考え方は意外とできていない。高等学校はその連続性の中でどうあるべきかという議論をしなければならない。

意見3 飛騨市学園構想は、大きな夢に向かって進んでいる。学校・地域・生徒・保護者及びそれらを取り巻く環境が一つになって、相互理解をしながら進めていかなければならないのではないか。

#### 6 会議のまとめ

- ・学校側が提案した学校運営の基本方針（「学校の組織編制」「学校経営計画（高等学校版マニフェスト）」「教育課程の編成」）については、全員一致で承認された。
- ・授業については全体的に良い評価をいただいたが、ICT環境の整備に伴う授業改善については、全教員によるICT活用の研修会や授業研究が必要である。
- ・地域との協働活動を柱の一つとしたカリキュラムマネジメントを行う中で、飛騨市学園構想への参画や学校運営協議会を通して、これまで以上に、地域の人々や保護者の理解・協力が得られる風通しの良い学校運営を行いたい。